

センター通信



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター



当センターは、大沼国立公園エリアに所在する国有林を主な活動区域として、「樹木博士認定会」や「森林づくり塾」などの体験型森林環境教育のほか、「大沼自然豊かな森づくり協議会」と連携した吉野山国有林の自然再生事業に取り組んでいます。今回は、多様性のある森林への再生を目指して取り組んできた「吉野山森林植生観察会」についてご紹介します。

七飯町では、古くからスキーが盛んに行われてきました。その中でも「吉野山スキー場」は1925年に開設され、1988年に閉鎖されるまで、道南地域における冬季スポーツの普及に一翼を担いました。スキー場の閉鎖後、跡地が「ふれあいの森」に指定されたことを契機に、地元大沼の漁業関係者や地域住民が「大沼自然豊かな森づくり協議会」を立ち上げ、自然再生活動に取り組み始めました。

森づくり協議会では、吉野山の森づくりの方向性について議論を重ねるとともに、「自然再生には森の変化を把握するため、植生状況の変遷を知る必要がある」という考えのもと、北海道アウトドアガイドである木村マサ子氏を中心に、2015年から現在まで「植生観察会」と銘打ち、一般の方も参加しながら植生調査・記録を行ってきたことが「吉野山森林植生観察会」の始まりです。

昨年は植生調査開始から10年の節目を迎え、これまでの調査データが集積されたことから、『吉野山の豊かな森づくりへ』と題した冊子を作成し

ました。この冊子には調査結果に加え、これまでの活動内容や吉野山で観察できる植物、鳥類などを紹介しながら、関係者や地域の皆さまへ配付しました。



吉野山森林植生観察会

今年5月には、市民や関係者23名が参加して、植生観察会を開催しました。参加者は完成した冊子を手にし、講師の木村氏から、観察された植物の特徴や名前の由来などについて説明を受けながら、吉野山の散策を楽しみました。



吉野山の散策



アオジ

当センターでは今後も地域の皆さまと連携しながら、大沼周辺の水質保全や景観の維持、野生動植物の保全などに取り組み、豊かな自然環境の保全と再生を進めていきます。



作成した冊子『吉野山の豊かな森づくりへ』